

環境問題

[戻る](#)

科目名	環境問題		コード		B110100			
授業形態	履修形態	単位数	年次		開講期			
講義	選択	2	1～4年		前期			
担当者名	安溪 遊地, 他7名							
授業概要 「環境問題は専門家にまかせておくしかない地球レベルの問題だ」という“常識”を根本から問い直し、身近な環境問題を足元から解決するための知恵と経験にまなぶ。身の回りでアスベスト問題や耐震強度不足のマンションなどの問題が起こったら、と想像できる感性を育て、みずからの暮らしを守るために行動に移す勇気を培う。衣食住のうちで、とくに今問題となっている「住生活と環境」をひとつの柱に、現場の声に耳を傾けさせる。マスコミには載らない情報に触れることで、さまざまなマインドコントロールを越えて、自分の生活そのものを再点検しながら深く考え、足下から暮らしと環境を変えていききっかけをつかむ生活者を育てる。								
到達目標 1)環境問題をめぐってなぜメディアが真実を語れないのかその背景を理解する。2)最高の学習の場が地域の暮らしの現場であることを実感する。3)問題が根本的に解決するまでの自らの暮らしを守る方法を実践例によって学ぶ。				成績評価の方法と基準 出席と授業中の発言による「参加点」。自由なテーマの小レポート1回以上と期末大レポート1回。大レポートのタイトルは授業中に指示する。				
学習目標			評価項目と割合					
具体的学習目標	配点比率	出席及び授業態度	小テスト	自主学習態度	レポート	プレゼンテーション	学期末試験	その他
(1) なぜメディアが真実を語れないのかを理解する	20	10	0	10	0	0	0	0
(2) 最高の学習の場は「地域の現場」だと実感する	50	10	0	10	5	0	25	0
(3) 自らの暮らしを変える実践にチャレンジする	20	0	0	20	0	0	0	0
(4) 実践にもとづいて希望を語る説得力を身につける	10	0	0	0	0	5	5	0
授業の項目と内容			自主学習課題					
(1) 4/11)この講義は何をめざすのか 知るは難く行うは易し(孫文)								
安溪遊地担当。メディアや専門家が本当のことを言えないわけ。CMは、メディアへの口止め料(船瀬俊介)かもしれない。いろいろなビデオを見て考えてみよう。			身近なマスメディアの中の「実はあれは嘘でした。」「やらせてました」というような例を探して、なぜそんな嘘ややらせが起こるのか、友人と話し合ってみよう。					
(2) 4/18)ホテル・マンション造りをやめて木造にこたわる一級建築士のお話								
一級建築士・林業兼重正司さんをお迎えして、ホテルやマンションなどの建築の現場から見たこと、消費者として注意しなければならないことを率直に語っていただく。			自分の理想とする「住まい」のイメージをなるべく具体的に表現してみよう。友人のイメージと比べて、その異同について話し合ってみよう。					
(3) 4/25)いま若者が地域でできること 近藤紀子さんをお迎えして								
近藤紀さんは、大学3年生で学生耕作隊を組織。起業する若者のパワーで、地域の農林業を守り育てるしくみを作った。			昨年度1億6000万円のビジネスに。その経験を聞くとともに、自由な意見を交換して話し合ってみよう。					
(4) 5/2)清流を守る村のトイレ屋さんとして								
ヤギを飼う安藤公門(きみと)さんは、人と人をつなぐ特技の持ち主。自然にやさしいトイレづくりのプロとして、屋久島やタイにまで足を伸ばした経験を語る。			無放流タイプのトイレの特徴を調べてみよう。http://www1.newweb.ne.jp/wb/tss-west/環境に与える影響を下水道と比較してみよう。					
(5) 5/9)グローバルからローカルへ 半農半業の楽しみを生きる								
国際文化学部の客員教授として、瀬戸内海側の田布施(たぶせ)町のお菓子屋さんである、大下充徳(あつお)さんをお招きする予定なので、そのお話を聞く。			あらかじめ、http://ankei.jp/yuji/?n=297を読んで、大下さんに尋ねてみたいことを考えておき、会場で(またはあとに予定されている交流会で)質問をしてみよう。					
(6) 5/16)県産材の産直で育てる林業 車椅子林業家の活躍								

阿武町・白松博之さんのお話。20年もかけて育った杉の木が缶コーヒー1本よりも安く、山の中でどンドン捨てられている。その現実を打開するための努力。	天然林はこれ以上切ってはならないが、人工林は間伐などで切らなければいけない、ということを理解する。
(7) 5/23)バリアフリーの農家民宿を始めて	
阿武町福賀の白松博之さん紀志子さんは、山口県第一号の農家民宿「樵屋きこりや」を2005年にオープン。その中から見えてきた、農村と都市の交流の大切さ。	白松さんのウェブページ「農家民宿・樵屋」を訪ねてみる。 http://www.haginet.ne.jp/users/kikori/
(8) 5/30)シックハウス症候群の体験	
渡辺信さんは、ある日突然、微量の化学物質にも過敏に反応するCS(化学傷害)に。たどりついた山口で誰もが安心して暮らせる「あったか村」の夢を育む。	あったか村・福賀のウェブページを訪ねてみる。 http://www.haginet.ne.jp/users/poco-a-poco/
(9) 6/6)スペイン・ナバラの農家民宿と自然エネルギー	
山口県と姉妹提携しているスペインのナバラ州では、グリーン・エネルギーとグリーン・ツーリズムの取り組みが盛んで、元気がもらえる。安溪貴子さん(生態学)協力。	「続やまぐちは日本一」の安溪貴子さんの章を読む。 http://ankei.jp/takako/ も参照。
(10) 6/13)ハゼの実ろうそく復活委員会に来ないか ログビルダーの夢	
岡部正彦さん(ログハウスビルダー)は、国産材でログハウスを作り、手軽で暖かいペレットストーブを普及し、ハゼの実ろうそく復活委員会で人生を楽しんでいる。	岡部さんのにぎやかなウェブページ http://www7.plala.or.jp/LOG/index.html を楽しもう。
(11) 6/20)瀬戸内海がよみがえる日	
長島の自然を守る会・高島美登里さんのお話。瀬戸内海最高の海と原発予定地の自然が破壊されていく現状を告発し、これまでの取り組みを報告。	瀬戸内海の片隅にかるうじて生き残った太古の生物のひとつの気持ちになって、人間たちの贈るメッセージを100文字でコミュニケーションボードに書いてみよう。
(12) 6/27)大規模開発につける薬はあるか 安溪遊地担当	
日本生態学会で3度「大規模開発につける薬」というシンポジウムを主催した。良薬は口に苦し。しかし、薬がなければわれわれの暮らしが滅びるのである	自分が書いてみたいと思う最終レポートについて、仮の主題を考え、どのような資料が利用できそうか考えてみる。
(13) 7/4)安心安全の暮らしのために(1) 安溪遊地担当	
それはほんとうに安心して食べられるものか、例えば10週間も腐らないポテトチップス。例えば半年もかびないレモン。例えば……。食べ物から暮らしを見直すための提案。	最終レポートの「目標規定文」を1000字程度で書き、文中での引用を予定している経験・本・雑誌・新聞・インターネットなどを具体的に列挙する。
(14) 7/11)安心安全の暮らしのために(2) 安溪遊地担当	
いま何が一番危機なのか。いま何をしなければならぬのか。	この日までにレポートの下書きを作成して、安溪にメールで送信した受講生は、コメントを取り入れて改訂版を作成し、再提出することを認める。
(15) 7/18)いま足下からできること 小さな森に県産材で建てた価格破壊住宅で	
安溪遊地担当。県産材の産直で建てた価格破壊の自然住宅づくりと「第三種兼業農家」としての四季の暮らし。そして、そこに突然起こったごみ処分場騒動の顛末。	自分の暮らしを変えるには、よくきく鼻とほんの少しの勇気が必要なのかもしれません。きっかけはささいなことでも、やってみましょう。学生による授業評価を忘れずに！
テキスト、参考書、教材	履修条件及び備考(レポート評価基準・その他の具体的評価内容基準等)
テキスト。安溪遊地編、2006『続やまぐちは日本一～わたちの挑戦～』弦書房。この本を入口にの一つとして、本当の教材は地域とその環境であることに気づいてほしい。	地球環境問題とされるものには、マインドコントロールな要素があることに気づいていると判断されれば、「可」以上。環境問題の解決には、地域において具体的に取り組めることが多いことを理解できたら「良」以上。身近な環境問題の解決を希望をもって語る姿勢があれば、「優」以上。さらに、身近な実践を通して、地球環境問題の解決に結びつくような提案ができれば、「秀」となります。
受講生へのメッセージ	
きっとまだ間に合うから、希望をもって、できることから始めてみましょう。足下から実践している方々の現場を訪ねるチャンスがあったら、気軽に動いてみましょう。	